

今日のトピック

米国のISM景況感指数（2015年12月）

低下したが、景気の拡大基調に変化は見られない

ポイント1 製造業指数は50割れが続く 新規受注指数は上昇

- 2015年12月のISM製造業景況感指数は、総合指数が48.2ポイントとなりました。前月の48.6から0.4ポイント低下し、好不況の分岐点となる50ポイントを2カ月連続で下回りました。
- 輸出の伸び悩みなどから、製造業の活動が引き続き停滞していることを示唆するものです。ただ、総合指数を構成する5指標のうち、先行性のある新規受注指数が上昇したことは、前向きに評価できます。
- 新規受注指数と在庫指数の動きから判断すると、製造業の在庫調整は今年1-3月期頃に一巡する見通しです。

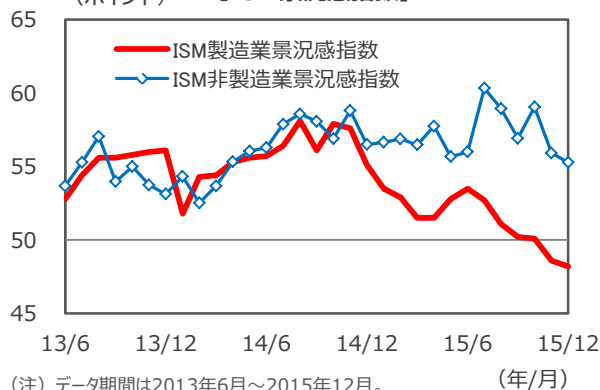
ポイント2 非製造業指数も低下 50台半ばの水準は維持

- 一方、12月の非製造業景況感指数は55.3ポイントとなりました。11月の55.9から0.6ポイント低下しましたが、50ポイント台半ばの水準は維持しました。内需への依存度が高い非製造業は、製造業とは対照的に拡大基調を維持していると考えられます。

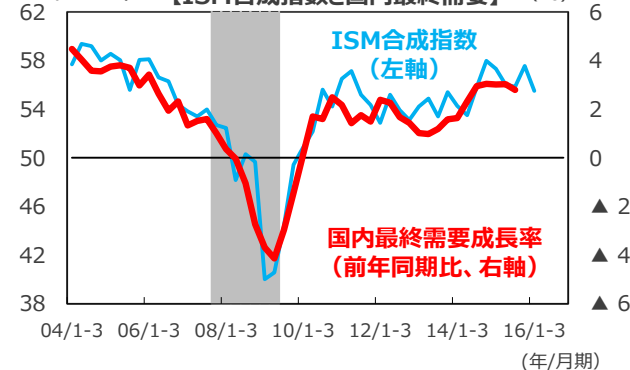
今後の展開 米経済は堅調に推移

- ISMの製造業指数と非製造業指数を、GDPに占める各々の比率で加重平均した合成指数は、米国経済全体の活動状況を表すと考えられます。その合成指数は、国内需要が今年1-3月期にかけて年率3%程度で成長することを示唆しています。

(ポイント) 【ISM景況感指数】



(ポイント) 【ISM合成指数と国内最終需要】 (%)



- (注1) 国内最終需要は2004年1-3月期～2015年7-9月期。ISM合成指数は2003年10-12月期～2015年10-12月期。ISM合成指数は1四半期先行。
(注2) ISM合成指数は製造業指数と非製造業指数を、GDPに占める各々の比率で加重平均したものです。
(注3) 国内最終需要はGDPから純輸出（＝輸出－輸入）と在庫投資を除いたもの。実質値の前年同期比。網掛は景気後退期。
(出所) Datastreamのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

- FRBは15年12月に利上げに踏み切りました。景気の拡大基調に変化が見られないことから、利上げは16年も継続されると予想されます。ただし、物価が落ち着いているため、利上げのペースは年2回程度と緩やかなものになる見込みです。

ここも チェック!

2015年12月29日 2016年の米国経済の見通し
2015年12月21日 2015年を振り返るキーワード 米国の「利上げ」(米国)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。